

# きりたんぽラウンド in Akitaの報告

令和6年1月6日(土)  
秋田県生涯学習センター  
秋田県事務局

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、従前のラウンドと同じような参加者から熱気が伝わる演習・協議が行われるとともに、オンラインとのハイブリッド開催も取り入れたアフターコロナ禍での研修でした。昨年度に引き続き、県外の先生方を含め30名ほどの方々に参加していただき、秋田の冬の寒さに負けないような熱い議論が交わされました。開始時は明るかった窓の外が、終了時には日も沈み真っ暗になるなど、あっという間に時間が経った3時間を超えるラウンドでした。

## 1 実践発表「能代山本体育研究会の取組～令和6年度秋田県学校体育研究大会に向けた実践～」

○研究概要について

能代市立東雲中学校 小森 博 先生

○今年度の取組と来年度の構想について

能代市立向能代小学校 上野 聖太 先生

三種町立山本中学校 鈴木 仁 先生

秋田県学校体育研究大会は、当県が目指す学校体育の方向性を踏まえながら、各地区で進めてきた授業改善の成果を公開するとともに、今後の体育の在り方を提案する研究会です。令和6年度の主管開催地区である能代山本地区からは、研究主題の「主体的に課題を発見し、他者と関わり合いながら粘り強く挑戦する体育学習」における取組として、「運動やスポーツが好きで、体力が高い児童生徒の育成」を実現するための、思考・判断と態度の観点を重視した授業改善についての実践発表をしていただきました。発表を聞いた参加者の声の一部を紹介します。

### 各グループ協議から

振り返りの視点を明確にすることが大切ではないか  
「〇〇さんからどんなアドバイスをもらったか」

思考・判断・表現のねらいと振り返りに一貫性を持たせるためにICT機能の活用方法を検討すると良いのではないかと…  
(静止画や動きの比較)

運動が苦手な子が生きる授業が、思考判断表現なのではないか。  
「主体的な活動するぞ！」って思って、体育館に来る子はいないけど…

## 2 講義・ワークショップ「個別最適な学び」と「協働的な学び」の具体的な検討及び「まとめ」

○桐蔭横浜大学 教授 佐藤 豊先生

○日本女子体育大学 教授 高橋 修一先生

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の検討を目的とするワークでは、授業のユニバーサルデザインの視点から、各々の学びの手法について考えました。

今回は、運動に関する領域や種目における困難な状況と解決のための手立てや支援について検討する演習を行いました。授業の階層を四つに分け、授業をデザインする際の視点が示されている図を参考にしながら、各層の障害等を有する子どもたちにしばしば見られる困難やそれらを解消する手立て等を検討しました。この演習を通して、障害のある子どもだけにとどまらずに、他の子どもたちも含めたユニバーサルデザインの視点での授業デザインを工夫することができました。また、演習のまとめでは、このような観点で、様々な領域や種目について各々具体的に検討したものを積み上げながら、個別最適な学びや協働的な学びの実践に生かしていくことが何よりも大切であるされていました。



講師の佐藤先生、高橋先生、発表者の能代山本地区の先生方そして参加者の皆様のご協力のおかげで、今年度も有意義なラウンドに終えることができました。本当に、ありがとうございました。【事務局】